

令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立東三国小学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果は妥当である。

小学校学力経年調査（学力調査・質問紙調査）や教育活動アンケート（保護者・児童）の結果から、学校行事や地域と連携した活動を進めている。

子ども達が地域の子であることを意識して成長できるよう引き続き地域の力を積極的に活用してほしい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

学校の年度目標

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を82%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。
- ・教育活動アンケート（保護者アンケート）における「学校は命や人権を尊重する態度を育てる取り組みを行っている」において、肯定的な回答の数値を90%以上にする。
- ・教育活動アンケート（児童アンケート）における「たてわり班で、みんなと協力して活動している」において、肯定的な回答の数値を96%以上にする。
- ・いじめに関する質問について肯定的な回答が増えたのはよかったです。（87.95%）特に「どちらかといえば、そう思わない」と回答した児童が今年度は0となった。各学年でいじめに関する学習を継続して取り組んでほしい。
- ・「学校へ行くのが楽しいと思いますか」の項目が目標値に届かなかった。（84.88%）学年が上がるにつれて数値が下がっているが、学級・学年でのフォローを今後も継続してほしい。
- ・たてわり班活動がさらに活発に取り組まれており結果に表れている。（96.3%）今後もしっかりと取り組んでほしい。
- ・学校が取り組んでいることは評価できる。さらに取り組みをアピールするとよい。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を68%以上にする。
- ・学力経年調査の結果がすべての学年において大阪市・全国平均を超えるどの学年も前年度より平均正答率の割合が上がった。また、国語の平均正答率の対全国比は、4・5・6年とも前年度より0.02ポイント以上向上した。授業研究や研修にしっかり取り組んできたことの表れとして評価できる。

| | 国語（本校／全国平均正答率） | | 達成状況 |
|-------|----------------|------|------|
| | R 5 | R 6 | |
| 現 4 年 | 0.86 | 1.01 | ○ |
| 現 5 年 | 1.00 | 1.09 | ○ |
| 現 6 年 | 1.04 | 1.06 | ○ |

- ・健康や運動について、委員会活動など児童の自主的な取り組みを続けることで、意識の向上が見られたことは、評価できる。今後も継続してほしい。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

学校の年度目標

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を86%以上にする。
- ・教育活動アンケート（児童アンケート）における「週に1回以上、本に慣れ親しんでいる」において、肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。
- ・教育活動アンケート（保護者アンケート）における「学校は、地域の人材や施設などを活用した活動に取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答の割合を90%以上にする。
- ・ICTの積極的な活用で学習の仕方や保護者連絡について効率的になっているのは評価できる。今後も活用法を工夫して、効果的な学習や働き方改革につなげてほしい。
- ・「地域の人材や施設などを活用した活動に取り組んでいる」については昨年度以上に取り組んでいるが、数値が予想以上に低く、目標値に届かなかった。(81.4%) アンケートや周知の工夫でより積極的にアピールしていくとよい。

3 今後の学校運営についての意見

- ・子ども達が地域の子であることを意識して生活できるよう、引き続き地域の力を積極的に活用してほしい。
- ・子ども達が活動する姿、取り組みの様子や成果を、保護者、地域の方々へ、さらに工夫して発信してほしい。